

復興まちづくり会社設立

陸前高田の第1弾は仮設商店街

陸前高田市の企業経営者らは23日、復興事業を展開する新会社「なつかしい未来創造株式会社」(社長・田村満高田自動車学校社長)を設立した。民間の力で自然エネルギーの活用や伝統産業を生かした雇用・新産業の創出を目指し、新たなまちづくりに取り組む。第1弾の事業として市内に仮設商店街を開設する方針で、10月にも一部店舗で営業を始める。

同社は、陸前高田市の地域資源を生かした産業復興を図ろうと地元企業らが組織。社会的課題を解決するため「ソーシャルビジネス」を進めるソーシャルビジネス店街は同市竹駒町のマネス・ネットワーク(東京)が支援する。同日約4600平方メートルを借り、コンテナを改造して開設。カフェや居酒屋、菓子、すしなどの飲食店のほか衣料・雑貨や太陽光発電の活用

も構想。全国から事業資金を募る市民ファンドの活用なども考えている。

このほか、次世代を担う起業家育成、情報通信技術(ICT)事業の導入、防災研究や防災教育などの事業も計画する。

同日は、同社と連携する生命環境産業振興協議会(理事長・清水健司岩手大教授)も設立。地元経営者や若手大、県立大、東北大などの学識経験者らが会員となり、地域特性を生かしたまちづくり構想を練り、同社が事業化する。

田村社長は「千年、

2千年先を見据えたまちづくりが必要。この街をもっともったい街にしていきたい」と意気込む。